

■杉本茂十郎(大坂屋茂兵衛) 甲州商人先駆者。十組問屋の危機救い三橋会所を設置するなど、江戸経済を支配。

すぎもともじゅうろう

田沼意次老中1772＝ この頃、甲斐国八代郡夏目原村で、上層の農家次左衛門の末子に生まれる。

兄弟が13人と多かったため、暮し向きは楽でなく、

・・・・・・1781＝ 9歳：

田沼意次失脚1786＝14歳：

甲斐国で、石門心学の有名な学者志村天目が開いた塾と和歌の大家の神主栄名井聡翁の塾に通って、ともに感化を受け、生涯の師となる。

異学の禁・・1790＝18歳：

この間、志村天目の影響下に、町人の生き方を説く「顕元録」を著す。

松平定信引退1793＝21歳：

ポルトガル来航・1796＝24歳： この頃、江戸に出て、奉公するうち、才気あふれる働きぶりが江戸本船町の森田屋次郎兵衛の目にとまり、

古事記伝・・1798＝26歳： その世話で、飛脚問屋大坂屋茂兵衛の養子になる。

蝦夷地直轄始1799＝27歳： 七代の娘と結婚して、家督を継ぐと、家業の建て直しに奔走し、

飛脚運賃値上げをめぐって十組問屋と交渉し、敏腕ぶりを発揮するとともに、十組問屋にも評価され、

間宮海峡発見1808＝36歳： *十組問屋に担ぎ出されて、砂糖問屋との長年の紛争を調停、十組問屋の再建を乞われたことから、家業を義弟に譲り、茂十郎と改名して、菱垣廻船の再建と流通機構再編に尽力して行く。

浮世風呂・・1809＝37歳： 自著「顕元録」を読み聞かせて、大行事や惣行事を説得、冥加金を集めて、菱垣廻船の復興による問屋仲間の利益を図るため、大川筋の三つの橋の架け替え・修復を請け負う三橋会所を組織、幕府から認可されると、頭取に就任。毎年冥加金を上納するのと引き換えに、幕府から手厚い保護を受けるようにして、三人扶持・苗字御免・肩衣着用・地割役次席を許され、

・・・・・・1810＝38歳： 町奉行所御用達を任じられるに至る。

浮世床・・1813＝41歳： *問屋株を設定後、仲間を22組から65組と増大させ、株鑑札を持った問屋が市場を独占する特権的地位保障を実現させ、江戸商人全体を支配する会頭として君臨、町年寄や奉行所で扱っていた権限全てを掌握するに至るも束の間、強圧的な会所運営に加え、米市場で莫大な損失を出し、その補填のための度重なる出金強要が有力問屋から反感を招き、特権に与ることができなかった商人らの恨みを買い、怨嗟が高まり、この年の風聞記「文化中町方留書」には、退治すべき怪しい猛獣として描かれるに至る。

杉田玄白没・1817＝45歳： この間、実家の借財を解消して質地請戻しを実現し、菩提寺に眠る先祖代々の法名に院号を加えるなど、村と家に思いをはせ続けたが、

水野忠成老中1818＝46歳：

群書類従完結1819＝47歳： *最大の庇護者だった北町奉行永田正直が死去すると、幕府への批判をかわして罪をおしつけるべく、北町奉行に呼び出され、さまざまな咎で、扶持・特権すべてを剥奪され、

膝栗毛終・・1822＝50歳： 没した。